年間第１１主日

福音朗読　マルコ４・26-34

2024.6.16 9：30 ミサ
東京神学院養成担当
林 正人神父(東京教区司祭)

まず、神学院の養成者として。今年もこの高円寺教会で神学生を受け入れてくださってありがとうございます。本当に助かっております。
が、今ここに神学生はいませんね。どこにいるか。実は、自転車で転んで骨を折ってしまいました。それで、今、神学院で車椅子の生活をしております。彼のためにお祈りしていただければと思います。

さあ、そこで、人のアクシデントをネタにして話し始めるのはちょっといけないのかもしれませんけれども、皆さんは骨を折った経験ってありますか？――これ、慣用句の「骨折り」ではありませんよ。日本語では身体の骨を折る以外に、苦労したりすることを「骨を折る」って言います。その骨折りだったら、わたしたち骨の２、３本折ってると思いますけれども、そうではなくて、身体の骨を折ったことのある方、いるでしょうか。実はわたしは今まで、生まれてこのかた骨を折ったこと、骨折したことはありません。ですから、骨を折ったときの痛みっていうのがどういうものかっていうことはちょっと分からないんです。考えただけでも恐ろしいと感じています。だって、この硬い骨がポキって折れるんですから、どんなに痛いんだろうと、想像しただけで恐ろしいです。
ただ、骨の折れることの恐ろしさよりももっともっと不思議なのは、その硬い骨がまたくっつくっていうこと、それがほんとに不思議でなりません。どうやってくっつくんでしょう。いやそれはお医者さんに聞けば分かるとは思いますよ。例えば牛乳いっぱい飲んで、カルシウムができて、ポキって折れてた骨がまたくっつく、そういうメカニズムなのかもしれませんけれども、でも、お医者さんに聞いてそういうメカニズムは分かるかもしれないけれども、体の中で一所懸命、折れた骨を治そう治そうと体が頑張って、そしてまた骨が一つにくっつく。不思議ですねー。
そしてもっと不思議なのは、わたしたち赤ちゃんのときにはこんなちっちゃいじゃないですか。今こうやって大きいですよね。身体が大きくなると同じように骨だって、この固い骨がだんだんだんだん大きくなるわけです。不思議ですよねー。どうやって大きくなるんでしょう。それもお医者さんに聞けば分かるのかもしれないけれども、人間の身体ってつくづく不思議だなって思います。
不思議だってことで言うならば、骨だけじゃなくて、わたしたちの身体の中、内臓も。わたしたちはこれまで約４年間、新型コロナに苦しみました。2020 年の最初の頃っていうのはほんとに得体のしれない病気だったので、どういうことが起きる

だろうって――実際に志村けんさんとか岡江久美子さんが亡くなられました――、あの頃、ほんとに「罹ったら大変だ」ってびくびくしていました。でも、だんだんだんだん、ワクチンのお陰もあるのかもしれませんけれども、わたしたちの身体がコロナ・ウイルスっていうものをだんだん覚えてきて、「こいつが入ってくればこういうふうに戦えばいいんだ」、そういうのをわたしたちの身体がだんだん覚えてくるわけです。ですから、今は、感染力は最初より強いのかもしれないけれども、その毒性みたいなのは――最初の頃「コロナはただの風邪だ」って言ってた人がいて、ずいぶん批判を浴びましたけど――今となったらコロナは風邪程度っていうくらいに考えてもいいのかもしれません。それもやっぱりわたしたちの身体が必死になって新たに身体に入って来たコロナっていう病気をなんとかなんとか治そう治そうとして、そして今、４年経ちましたけれども、今は風邪程度で治まるようにこの身体が覚えてくれたってことなんだと思います。

本当にわたしたちの身体っていうのはうまくできているなって思います。身体っていうのは、ある意味わたしたちの心とは関係なく、自分で勝手に「健康になろう、丈夫になろう」、そういうふうに働いてくれる、それがわたしたちの身体ではないかなと思うんです。生き物はみんなそうなのかもしれませんけれども、みんな「良くなろう、健康になろう」って、そういうふうに必死になって働いてくれる。それがわたしたちの身体ではないでしょうか。だから良かったですね。これが、身体が「悪くなろう」っていうふうなメカニズムになっていたら、わたしたち大変です。薬いくつあっても足りません。そもそも身体が「悪くなろう」っていうふうにインプットされてたら、わたしたち人間はあっという間に絶滅していたでしょう。でも、幸いなことに、わたしたちの身体は「良くなろう、丈夫になろう」っていうふうにインプットされているので――神様がそう造ってくださったんだろうと思います――だからわたしたちはこうやって、時々はこの身体は悪くなりますけれども、でも健康でいられる。それはほんとに感謝するべきことではないかなって思うんです。

今日の聖書のお話で、種を蒔くと芽が出てきて、そして花が咲いて、そして大きな木になるというイエス様のお話が出ていました。これもまた、小さな種の中に「丈夫になろう、大きくなろう」っていう意思がインプットされていて、そしてこの種は大きな木にまで成長していくんだろうと思います。それは、言ってみれば、わたしたち生き物を造ってくださり、そして愛してくださる神様にわたしたちの身体は「神様に応えよう、神様に応えよう」って、そうやって必死に成長しているっていうことなんではないかなって思うんです。わたしたちの体はそういう力を秘めているということなんじゃないかなと思います。

さあ、そういうふうに、わたしたち人間を含めてすべての生き物の身体っていうのは、それを造って愛してくださる神様に応えよう、応えようとして必死に成長しているんです。でも、この世で一つだけその愛してくださる神様に応えようとしないものが、残念ながらあります。それが、人間の心です。わたしたち、自分の身体

は神様に応えよう応えようってしているのに、わたしたちの心は時々その神様を見失っちゃいます。時には神様に背を向けてしまいます。時には「神様、あんたなんか嫌いだ」って言ってしまいます。

わたしたち、自分の身体は神様に向かっているんですよ。成長しているんです。でも、わたしたちの心が「神様が嫌いだ」って言っている。もしそういうことだったとしたら、わたしたちは心と身体で分裂が起きているっていうことなのかもしれません。人間だけが、残念ですけど、そういう状態になっちゃうことがあるわけです。その心と身体が一致していない、それが、わたしたちのこの地球のあらゆる不幸を呼んでいるんじゃないかなって思います。今は残念ながら心と身体が一致していない人がこの世には沢山いるんじゃないかな、だからこんなに戦争や紛争が起きているんじゃないかなと思います。

わたしたちの身体が、わたしたちの心に関係なく、せっかく神様に向かって良くなろう、神様に向かおうとしているんだから、わたしたちの心も素直に神様に向かって心と身体を一致して歩んで行く、それこそが神様のお望みですし、わたしたちの幸せなんだろうと思います。

今日もわたしたち、ありがたいことにこのお御堂の中にいる人は一致して、心も神様に向かっています。心も身体も一致しているということです。心と身体、わたしたちの存在すべてを使って、今日も神様をたたえてお祈りしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。
PC　http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi
携帯　http://www.koenji-catholic.jp/mobile/